

『邪馬台三国志』歴史物語のあらすじ 最新版 目次

◇家長と祭器 ◇呉越の歴史／秦漢の統一王朝 ◇王朝の変遷 ◇大和朝廷の成り立ち

◇倭国／倭奴国の国のかたち ◇本書の王系譜〔海部氏系図、尾張氏系譜、「記紀」系譜の合成系図〕 1

◇本書の王系譜2 ◇邪馬台国の国々／皇孫火瓊瓊杵の日前（投馬国） 西都（宮崎県西都市大字妻）と

天孫天火明の日高見国東都（千葉県市原市惣社）

倭国の生い立ち／那珂つ国／天之国とオロチ敵之国王朝／倭国王朝／豊葦原中つ国と伊都国の王朝

倭奴国王朝（倭国〔高天、日高十天之国〕＋豊葦原中つ国〔奴国〕）：一世紀前半／倭国大乱 …一八五年勃発

◇倭国大乱と瑞穂の邪馬台国勃興（大乱勃発時の戦場↓神戸市東部 決戦場↓島根半島の關見国〔黄泉国〕）

東西の王朝／瑞穂敵之国王朝（大倭唐古に都する邪馬台国）⇨水天神天照大神がオロチ敵之国王朝を再現

〔大乱後の高天（倭の国名を奪われた倭奴国）⇨高千穂宮に天宮して、天照大神を日神（日天神）に奉る〕

〔吾田に降臨した火瓊瓊杵が笠沙宮に都した国⇨日隈（日前、後に日前に改名）⇨日隈（熊野家）の継承国〕

倭の女王／倭国（天敵）之国王朝、関西⇨副都伊都国・奴国）⇨東西の王朝が合体して女王を共立…二二〇年代前半

〔倭女王ヒミコ⇨天照大神が日天神を降り、邪馬台国の纏向上之宮に遷座。伊都国（吉野ヶ里）に副都設置〕

〔勢力圏⇨倭国＋西都（西都市妻）に都する火瓊瓊杵の日前＋東都（市原市惣社）に都する天火明の日高見国〕

日本王朝と日前の対立／日本（日本の倭）朝⇨火明饒速日（火瓊瓊杵の兒火明、海幸彦）が倭国を継承した王朝

〔日前（日前の継承国）⇨火火出見（天火明の兒誉津別、山幸彦）率いる王朝↓後に和国と改名〕

天下は一つ、家は一つ（神武東征）／磐余彦が祖父の火火出見を襲名して日向から東征 …二八五～二九八年）

大和朝廷の成立（和国が大倭国と共立した大和家に日本家・豊葦原中つ国・敵之國等を併合…三〇一（辛酉）年）

〔物部氏⇨帰順後、軍事筆頭職に拔擢された可美真手（火明饒速日の兒）の姓。布都御魂剣で朝廷を守護〕

※天之国、倭、高天、倭奴国、大和朝廷は、呉太伯ら子孫。オロチ敵之国、葦原家、伊都国は、越王句踐子孫

◇邪馬台国、南九州天之国・高天系の対立 ◇本書の王系譜3 ◇本書の王系譜4

◇伊弉諾夫妻の実子、伊弉諾の主な養子と人質、妃の分身菊理媛と主な養女（大宜都比売、埴山姫、稚産霊ら）

◇本書の王系譜〔海部氏系図、尾張氏系譜、「記紀」系譜の合成系図〕 5

◆縄文晩期の那珂つ国……死返玉・道返玉など玉八つに加えて、熊の神籬・蜂の領巾など玉つ宝十種

◆前五世紀の天_之国……日鏡、奥つ鏡・辺つ鏡など鏡三面

◆前四世紀の敵_之国……死返玉など玉五つ(もと那珂つ国祭器)、奥つ鏡・辺つ鏡(もと天之国祭器)に加えて、敵_之国本家の宗像家 軍団を指揮する八握の細形銅劍(神璽、船団を指揮する蛇の領巾など瑞宝十種

敵_之国本家の宗像家 銅矛、日鏡(もと天之国祭器)、玉三つ(もと那珂つ国祭器)、熊の神籬など熊族神宝

◆前四世紀の熊族(熊襲)……銅矛、日鏡(もと天之国祭器)、玉三つ(もと那珂つ国祭器)、熊の神籬など熊族神宝

◆前三世紀の倭国王朝(高天)……北方系銅鏡 日限(熊野家)……瓊矛、日鏡・玉三つ、熊の神籬など日限神宝

◆豊葦原中つ国の天叢雲……天璽の天叢雲劍、死返玉など玉五つ、奥つ鏡・辺つ鏡、蛇の領巾など瑞宝十種

◆敵_之国宗家の宗像家……玉五つ、奥つ鏡・辺つ鏡、八握の細形銅劍(天叢雲劍)、蛇の領巾など瑞宝十種

◆倭奴国王朝初代女系天神の天常立……光武帝から賜る天璽の方格規矩鏡

◆日限(熊野家)の伊奘諾……神璽の金印「漢委奴国王」、神璽の瓊矛・日鏡・熊の神籬など日限神宝、

布都斯魂劍で倭奴国王朝と天神を守護

◆邪馬台国の水天神天照大神……新たに鑄た天璽の天叢雲劍(中細銅劍) 火天神天鹿兕山……天璽の羽羽矢

◆宗像家宗女の田心姫……玉五つ、奥つ鏡・辺つ鏡、八握の細形銅劍(天叢雲劍)・蛇の領巾など瑞宝十種

◆日神の天照大御神……石窟戸前で鑄た天璽の伊勢大神(三角縁神獸鏡) 倭女王ヒミコ……伊勢大神、魏帝鏡

◆素戔嗚……(方格規矩鏡)、神璽の金印「親魏倭王」、豪族に配る鏡(祭祀用八咫鏡と魏帝鏡)

◆高千穂宮の高皇產靈……日矛・日鏡など熊野家神宝、日前鏡、布都斯魂の十握劍で大蛇(天照大神親子)退治

(高千穂宮に赴く天照大神) 布都御魂劍に、「刃に血塗らずして倭国統一(高天十邪馬台国)」を誓う

◆目前の皇孫火瓊瓊杵……天神の御子と印す羽羽矢、石窟戸前で鑄た八咫鏡(日前鏡)・天叢雲劍など三種宝物

◆日本朝の火明鏡速日……神璽の十握劍二振り、天神の御子と印す天璽の羽羽矢、

天神天照国照彦火明……鏡作郷で鑄た神璽の天照御魂神(天璽の鏡の形代、天照国照彦火明命) 天璽の瑞宝

布都斯魂・布都御魂の十握劍二振りに、倭国統合(日本朝による和国併合)を誓う

◆和の磐余彦……羽羽矢、日前鏡、葬送用八咫鏡、敵から手にした日矛(熊野権現御魂)・布都御魂劍

◆大和朝廷の神武(磐余彦)……笠縫邑で新たに鑄た神璽の八咫鏡と草薙劍(天璽の鏡劍の形代)

火明鏡速日子孫の物部氏……布都御魂劍・瑞宝十種を授かり、大和朝廷・磐余彦火火出見の宮殿守護を誓う

『邪馬台三國志』歴史物語のあらすじ最新版 目次・概要

古代史の常識や通説を歴史的観点から検証すると、戦前に信じて疑うことのなかった皇統万世一系も、戦後に「百余国を束ねた王朝など、存在しなかった」と教えられたことも、全て誤りです。邪馬台史の全貌がとんと解明できない原因は、ここにあります。一から考え直して、再構築する以外にありません。

大陸の古い歴史を背負った渡来人らが築きあげる弥生史は、魂の再来、不老長寿、古の善政再現、仏法流布に挑戦した歴史でした。

縄文晩期、呉王夫差末裔（太伯ら子孫）が渡来して建てた天之国は、前三世紀に興る倭国王朝（戦国韓系日高国と天之国の連合政権、高天）、一世紀前半に興る倭奴国王朝（倭国と豊葦原中つ国の連合政権、天地）、天孫降臨後の南九州では日隈・日前・和国の名で再興された後、東征して大和朝廷の名で蘇った。

一方、前四世紀に越王句踐末裔（夏后小康庶子末裔）が建てるオロチ巖之国王朝は、豊葦原中つ国王朝、続く伊都国王朝の名で蘇ったが、結局は倭奴国王朝に取って代わられた。

大乱後、倭奴国王朝が日神率いる高天、畿内邪馬台国（天照大神率いるオロチ系瑞穂巖之国王朝）に割れて覇権を争った後、纏向に統一王朝（ヒミコ（日神）率いる天（巖）之国王朝（倭）↓火明饒速日率いる日本朝に発展）を共立するも、日向から東征した磐余彦（神武）率いる和国勢に席卷された。

とりわけ戦わずして倭国統一を謳う天照大神に対し、徳と真心を説く日神が仕向けた覇権戦略や、怨念と我欲にまみれた日本朝に対して、日神の教えを守ってきた和国勢が「天下は一つ、家は一

つ」を合言葉に挑む覇権戦争は、三国志や戦国・幕末期を凌ぐ世界中に誇れる無双の歴史だったが、大和朝廷の指導者らは本来の皇統、

神武―崇神―応神とあるべきところに、神武―崇神の間に大日本八代を挟み、崇神―応神の間に垂仁・景行・成務・仲哀の邪馬台国系四代を割り込ませて、万世一系に改ざんしたのです。

司馬遷の信念と本来の王系譜の下で、記紀・史記など資料、各地の伝承、神社の縁起、発掘結果、地名の由来、各家の奉じる祭器と変遷を織り交ぜながら、縄文晩期〜大和朝廷樹立に到る歴史を物語化しました。本書はそのあらすじです。